ステパノだより

10月号　No.269

今月の聖句

『体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。』

コリントの信徒への手紙一　第12章22節

10月の予定

1日(土)　英検(中)
4日(火)　入学願書受付(小)～5日
8日(土)　運動会
10日(月)　運動会予備日
11日(火)　運動会代休
13日(木)　転入願書受付(小)～14日
14日(金)　聖書教室
17日(月)　教務委員会
　docomoスマホ・ケータイ安全教室(小)
19日(水)　内部進学願書受付(小)～20日
　docomoスマホ・ケータイ安全教室(中)
21日(金)　小学校入学考査①　～22日
　自宅学習日(小)、教職員協議会
24日(月)　理事会、評議員会
26日(水)　秋の遠足(小・中)
　修学旅行(中)～28日
27日(木)　修学旅行(小)～28日

創立記念礼拝

9月16日、ホールにて創立記念礼拝が行われました。全学年が集まることは叶いませんでしたが、旧職員で本学の創設者、澤田美喜先生と一緒にお仕事をされていた池澤登志美先生にご講話を頂きました。また、新理事長となられた森田利光先生にもご挨拶を賜りました。

◎今月の行事から

【運動会】　10月8日（土）

なかなか実施できなかった運動会ですが、今年度は感染症対策を徹底した上で、プログラムを再検討し実施いたします。コロナ禍であっても、子ども達が安全に、そして本気で取り組み、実り多い時となるように祈るばかりです。

【修学旅行】

小学校　10月27日（木）～28日（金）
中学校　10月26日（水）～28日（金）

小学校は、一泊二日で京都に出かけます。現地では貸し切りバスを利用し、金閣寺や三十三間堂など、古都京都の名所を回ります。

中学校は、広島・兵庫方面に二泊三日で出かけます。広島では平和教育を主たる目的として原爆ドーム、平和記念公園などを中心に回り、学びを深めます。他にも厳島神社や白鷺城の愛称を持つ姫路城も見学予定です。

【秋の遠足】10月26日（水）

小学校は1～2年生が新江ノ島水族館、3～5年生が富士サファリパークを見学します。海辺の生き物や動物との触れ合いを通して自然に親しみ、慈しむ心を育みます。

中学校は1～2年生が神奈川大学と太陽油脂株式会社の二つの施設を見学し、SDGsについて学びます。

理事長就任にあたって

理事長　森田　利光

この度、聖ステパノ学園前理事長・小川正夫先生の後任理事長に任命されました森田利光と申します。

二十五年の長きにわたって聖ステパノ学園に尽くしてこられた小川先生、本当に有難うございました。ひと言で二十五年と申しますが、なみ大抵の年月ではありません。この間に小川先生は本学園がお預かりしている児童生徒のためになる教育を行うために、多くのことをしてこられました。

私は本学園に理事として関わりを持つようになったのは二〇〇三年からです。その頃すでに小川先生は学園の将来を見越して総合発展計画を描き、着実に一つ一つ実現させておられました。戦後間もないころ建てられた前の校舎は必ずしも立派なものではありませんでした。良い教育環境で良い教育を実現したいとの思いから、必要な施設の建築をお考えになっていました。

先ず初めのプロジェクトが「海の見えるホール」の建設でした。広く募金を呼びかけて多方面からご寄付を頂戴しました。ホール入り口の側面にはご寄付を頂いた方々のお名前が刻まれています。それを見ると知った方々のお名前が沢山記されていて、本学園に心を寄せていてくださる方々に感謝の気持ちが湧いてきます。この方々には小川先生のなさることなら喜んで協力しようという有難いお気持ちを感じます。

「海の見えるホール」をはじめとして、その後の諸施設の建築に関しましても、その都度多くの善意に支えられてきました。これらの募金、建築につきましても小川先生あってこそ実現したことです。

最後の「小学校教室棟」、「体育館棟」に至るまで、小川先生は当初に描いた構想のハード面をほぼ完了させました。そして、ご自身の年齢や健康のこともお考えになって、二十五年間もの長きにわたって育ててこられた聖ステパノ学園から身を引く決断をなさいました。理事会・評議員会もそれを理解し、新しい時代のステパノ学園の出発を決断しました。

ハード面ばかりではありません。小川先生は教育のソフト面にも同じように心を注いでこられました。教職員にもキリスト教の愛の教育の実践を自ら模範となって示されました。教職員もよく小川先生のお考えを理解して実践し、子どもたちを大切に育てる教育をしています。私は一理事ですから、日ごろの教育現場を見ているわけではありませんが、毎年卒業礼拝式とその後の祝う会には出席しています。卒業式はその学校の教育を具現しているからです。卒業式を見ればその学校の教育が分かるとよく言われますが、その通りです。ステパノの卒業礼拝式と祝う会からは感謝の気持ちが伝わります。先生たちが大切に教えて育ててきた生徒との別れに温かく接している様子から生徒と教師の良好な関係が見て取れます。

本誌「ステパノだより」九月号には、児童生徒、全教職員の小川先生に対する感謝の便りが載っています。これを読むと、小川先生と児童生徒、教職員との人間関係がよく分かります。なかでも私の印象に残ったことは、小川先生と教職員の間で語られていた一つの言葉です。それは、「神さまはこの子を愛しておられるんだよ。」というひと言です。何人もの先生がこの同じフレーズを書いておられます。校長と教員との間でこういう言葉が交わされる学校を想像してみてください。素晴らしいと思います。神さまから愛されている大切な子ども達を送り出す卒業式で、先生方と卒業生たちとのとても微笑ましい良好な関係を、毎年感じております。こういう学園を育てている教職員の皆さんに敬意を表します。

最後になりましたが、常日頃から聖ステパノ学園をご理解、ご支援していてくださる多くの方々に心から感謝申し上げます。同時にまた、今後とも本学園のために、そして、ここに学ぶ児童生徒のために、教職員のためにご加禱くださいますよう、お願い申し上げます。小川先生がここまで育ててくださった聖ステパノ学園はこれからも、より良い教育を続けてまいります。

『やればできる』

学校長　佐藤　紀明

私達は生活の中で「できない」という言葉を簡単に使いがちですが、年齢や能力の面で明らかにできないこと以外は、できないのではなく、やったことがない、慣れていない、やり方を知らない、教えてもらっていない、のどれかになると思います。つまり、『やればできる』ということです。お笑い芸人の言葉で有名ですが、この言葉がとても好きです。

一人ひとり、「できる」速さは違いますが、やっているうちに少しずつ上達していきます。

私達ができない子どもに何でも先回りして完璧な対応をすることは、子どもから学びと成長を奪うことに繋がってしまうと思います。

生まれた瞬間に歩ける子どもはいません。寝返りに始まり、ハイハイ、つかまり立ち、転びながらも、歩くことを覚えていきます。「きっと歩けるようになる」と励ましながら見守ります。子どもは学びの機会を得ることで、次第に歩けるようになっていくのです。

学びの機会は、「見守ること」「待つこと」この二つがとても大切なことだと思います。子どもに良かれと思って何でも私達がやってしまうことは、子どもの学びと成長を奪ってしまいます。だからこそ何でも「できない」と言う子どもに対して、私達は子どもを信じて、温かく見守って、待つことが大切です。

自己効力感という言葉があります。これは非認知能力の一つで、「自分はできる」「できると思う」「きっとできる」と思える力です。「私はできる」そう思える子は行動できます。

このような認知状態にあると、学校や生活など様々なシーンで直面する壁や困難、難問に立ち向かうことができます。たとえ失敗をしてしまっても早く立ち直ることが可能です。

自己効力感が高まれば、「次はきっとできるはず」「失敗してしまった理由を考えよう」と、前向きに気持ちを切り替えることができます。一喜一憂して落ち込まなくなり、困難や失敗を力に変えて成長できるようになるのです。

自己効力感は、自己肯定感とよく似ている言葉ですが、実際は大きく異なります。人間の行動や成果に対して、「自分ならできる」と考えられるのが自己効力感で、自分自身の存在を肯定、認められる力が自己肯定感です。このように「できる」と信じる自己効力感、「できても、できてなくても」自分を認める自己肯定感とは、明確な違いがあります。

この自己効力感を効果的に高めるためには、自身の「実行機能」を高めることが有効です。実行機能とは、「やり方を知っている」ということです。目標達成のために、何を、いつ、どれだけ、どこでやればいいかについて必要な情報を集め、達成のための計画を立てて、実践して目標達成する力です。この能力は、特別なことをしなくても、日々の生活の中で効果的に高めていくことができるのです。

たとえば、自分の力で何かを達成した成功体験を積むことで、過去の経験や自分の知識、スキルなどが自己効力感に繋がるので、成功体験でそれらに自信を持つことができます。成功体験は、必ずしも大きな成功である必要はなく、小さい目標を達成していく方が取り組みやすいです。難易度を高めていくことで、より良い成功体験を積むことができます。

また、自分自身で体験するのが難しい場合、身近な例を参考にするのも良いと思います。他の人の取り組み方をヒントにして、自分にできそうなところから実践していくのです。

そして、周囲の言葉がけによって、自信が芽生えて自己効力感が高まります。言葉がけは大切でポジティブな言葉を伝えるのが良い方法です。良いところを誉めながら、必要に応じて指摘してあげることで、そこから自信やモチベーションアップに繋がっていきます。

> やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、
> 誉めてやらねば、人は動かじ。話し合い、
> 耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。
> やっている、姿を感謝で見守って、
> 信頼せねば、人は実らず。　（山本五十六）

子どもは、「できない」のではありません。みんな、『やればできる』のです。やり方を学び、やることに慣れれば良いだけです。

私達の「やって見せる」「一緒にやってみる」という姿勢で取り組むことが大切です。

「先生はさ、何でこの学校に来たの？」

教諭　林　健太郎

「先生はさ、何でこの学校に来たの？」先日、ある児童に言われた言葉です。その児童は、自宅が本校から遠く、登校するのに苦労をしていて朝とても眠そうでした。「先生はさ、東京の池袋みたいな凄い遠い所から、何でわざわざ大磯にあるこの学校に来たの？」

確かにその児童の言う通りで、遠い所から来たものです。その児童は夏休みに池袋サンシャインシティに行ったと言っていたので、その子からすればその距離感は相当なものだと感じた筈です。（因みに、私の実家はそのすぐ裏にあります。）

さて、その実家には現在母がおりまして、二年前に亡くなるまでは父も暮らしておりました。私はクリスチャンではありませんし、決して信心深い人間でもありませんが、私の両親は信心深い仏教徒です。二人が初めて会ったのは、あるお寺の説法会だったということです。そんな二人ではありますが、今思うと非常に教育熱心な両親でした。時代がバブル真っ只中なこともあり、私は小学校受験をすることになります。

そうなると、仏教系の学校に行くことになりそうなものですが、ある学校の見学をしたところ、母はその学校を気に入ることになります。「汝を生みし者を喜ばせよ。」とマリア像の台座に書いてあるのを見て、母はその学校に決めたそうです。

一度は受験に失敗し、二年生の時から編入で入学することが出来ました。そこで、小川先生と初めてお会いすることになります。

そして四年生の時に、将来の夢について書くということがありました。当時、テレビで見た「マイライフ」（ある男性が父親になるまでの様子をビデオでとっていくという話）という映画にとても感動し、父とも仲が良かった私は、将来の夢「父親」と書いたところ、担任の先生が少し困った顔をして、「林、そういうことではなくて、普通は仕事について書くんだ。」と言われたのをよく覚えています。

よく小学生のなりたい職業ランキング等が話題になったりしますが、当時の私は魚釣り、手品、ミニ四駆に夢中で、将来働くということを全然考えていませんでした。

そして六年生になり卒業文集に将来就きたい仕事について書く欄があり、仕事と言われると「父親」と書くわけにはいきませんから、真剣に将来就きたい仕事について考えなくてはならなくなりました。

「そうだ、教師になろう」どこかの鉄道会社のCMみたいなことを思いつきます。何とか無事に卒業文集の締切に間に合ったのですが、歴代の担任の先生方から「林、本気か？」と聞かれ、「はい！」と力強く答えました。

中学、高校、大学と推薦で入学し、入試が無かった分、色々な経験をしました。それでも、教員以外になりたい職業を見つけることは出来ませんでした。

「大人になっても働きたくない、遊んでいたい。」という子どもにも、決して偉そうなことは言えません。自分も小学生までは、魚釣りをして生きていきたいと思っていましたし、何とか楽をしてお金を得たいとも思っていました。

それが小学校の教員になり、十五年も続け、神奈川の大磯の学校で働いているということは、小学校四年生当時の自分からは、想像も出来なかったことです。

私は今までの人生、自分で選択をしてきたことに概ね満足しています。教員の仕事に就いたことも、この学校で働くことについても、自分で決めました。ただ、ここまでたどり着くまでには、両親は勿論、出会った多くの先生方、友人、同僚の先生方等の影響が非常に大きかったのも事実です。周りの先生方への憧れが無ければ、教員になろうとは思わなかった筈です。

「小川先生にこの学校で働いてくれないかと言われて、嬉しかったからだよ。」とその児童には答えました。

確かにそれは事実なのですが、今までの自分の人生を振り返ってみると、これはもしかして、神様に呼ばれたのかもしれないとも思いました。決して信心深くない私ですが、この神様のお導きには本当に感謝しています。

キリスト教学校で育つということ

教諭　伊藤　有紀

私は幼稚園、中学、高校、大学とカトリックの学校で過ごしてまいりました。まだまだキリスト教に触れられる環境で学びたいという思いがあり、聖ステパノ学園に来ました。同じキリスト教であるから、大きく変わることはないだろうと思っていましたが、ステパノで新たに知ることができたこと、出会えたことがいくつかあります。

まずはお祈りについて。これまでの私にとっては、『アヴェ・マリアの祈り』が最も身近であった祈りですが、キリスト教学校では、『主の祈り』がそうであると言えるでしょうか。また、ステパノの式文には、様々な場面や人を想った祈りが書かれていることに感動しました。祈りという行為には、「救い」や「感謝」などの要素が含まれていると個人的に考えてきましたが、物事に取り組む前の「心意気」のようなものも、祈りから生まれるものであると、子どもたちと共に祈るうちに感じるようになりました。

また、聖歌もキリスト教学校においては切り離せない存在であります。私も、これまでの生活の中で日々聖歌を歌ってきましたが、ステパノで歌う聖歌は、どれも初めて聴く歌ばかりでした。新たに素敵な聖歌と出会える毎日に喜びを感じています。小学一年生たちも、それぞれお気に入りの聖歌があるようで、音楽の時間に歌いたい聖歌を先生にリクエストする姿に微笑ましくなります。私自身もそうですが、きっと彼らにとっても、いつまでも寄り添い、歌い続ける歌となるでしょう。

どのような環境で育ったかというのは、人格の形成に大きな影響を与えると言われています。私の中高の敷地内には修道院があり、校長先生はシスター、現代文や英語、化学もシスターから教わりました。いつも穏やかで、優しい笑みを絶やさないシスターたちと過ごすことによって、その姿から自然と学んだことも多くある気がします。

『挨拶は必ず相手の目を見て、笑顔でするのよ。愛が伝わるようにね。』

『神様にも人様にも喜ばれる人は、一番幸福ですよ。』

など、キリスト教の精神に基づいた多くの訓えを得てきました。そのような訓えは、自分自身の行動の判断基準ともなっているように感じます。いつからか、「正しいことがいつも人を救い、人を幸せにするとは限らない。だから、人として正しいかどうかではなく、人として美しいかどうかで判断して、行動しよう。」と思うようになりました。そのような、自分の人生観や価値観の軸となるものが、キリスト教学校で育つことによって当たり前のように自分の中に形成され、身につき、自分自身となっていきます。

計算ができる、漢字が読める、書ける、という事ももちろん重要な事ではありますが、「人を大切にする心」も忘れてはいけない大事なことであると感じています。ステパノは少人数の学級編成でもあるため、クラスの全員が全員の事を想って生活してほしいという思いがあります。入学当初の小学一年生たちはまだ緊張していたからか、挨拶をされても黙ってしまう子がいましたが、二学期を迎えてから変化が見られるようになりました。お互いにお互いの事を気にかけ、意識することができるようになってきたと感じます。朝、元気よく挨拶をして教室に入ってきてくれることが多くなり、その友達に対して、クラスの全員が反応して、挨拶を返す姿に心が温かくなります。困っている子を気にかけ、手を貸してあげる姿も見られるようになりました。ステパノでの学びや人との関わりを通して、人に喜ばれる事、感謝される事に幸せを感じられるようになっていってほしいです。

キリスト教学校で育つという事は、とても幸せな事だと私自身は思います。同じ環境で学び育った者同士が、何かにおいて同じ価値観を持ち、お互いを理解し合える心地よい存在となるのは必然的な事でしょう。今、日々を共に過ごしている小学一年生たちも、お互いがより大切な存在となっていきますように。そして、ステパノの建学の精神、また先生方の姿に倣い、キリスト教学校でしか得られない学びを大切に、ステパノの子らしく素敵な人に成長してほしいと思います。

【小学校】

小学1年生は、初めてのステパノまつりでした。お兄さん、お姉さんたちにもてなしてもらい、楽しい一日を過ごしました。一人ひとりにインタビューして、感想を聞かせてもらいました。

「初めてのステパノまつりはどうでしたか？」

「6年生の射的でトトロにあたって嬉しかった！」（U・I）

「5年生のボーリングで、高橋先生のピンを倒せてうれしかった！」（K・A）

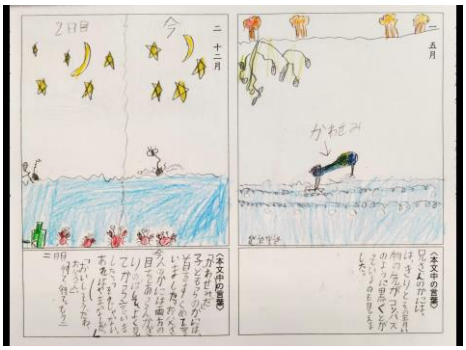
「4年生のマジックショーがすごくてびっくりした！」（I・N）

「4年生のマスクレンジャーショーで、悪者を倒したのがカッコよかった！」（Y・C）

6年　国語

宮沢賢治作『やまなし』を読み、五月と十二月の場面を描いてみました。

二匹のかにの子どもらが、青白い水の底で話していました。
——それは、ゆれながら水銀のように光って、ななめに上の方へ上っていきました。



三びきは、ぼかぼか流れていくやまなしの後を追いました。

【中学校】3年ぶりにステパノまつりが開催されました。久しぶりのまつりを生徒たちはとても楽しんでいました。その時の様子を日記の中からお送りします。

中学一年　S・K

今日は、ステパノまつりがありました。今日はダンスの本番のステージを一部と二部で踊りました。

衣装がみんなかわいかったです。石川先生の衣装もすごく似合っていました。

本番は、中学生がいっぱい見に来てくれて、ダンスのステージは人気でした。

一部が終わってから、Nちゃんとおばけやしきを見に行きました。ちょっとこわかったけど、中二教室と中三教室がすごくすずしくて、ちょっと怖かったです。でも、おもしろかったです。

二部の時間になり、ホールにもどって準備をしました。二部の本番は、一部よりも二部の方が笑顔になりました。

本番のダンスは緊張したけどグループのみんなと一緒に踊れてすごくたのしかったです。

教室に戻ってからお昼ごはんを食べ、その後片付けをし、帰りの会をしてから帰りました。

ステパノまつりがすごく楽しかったです。

カラフルガールズによるダンス発表

中学二年　A・M

今日はいよいよステパノまつり当日でした。3年ぶりなので、すごく楽しみでした。オープニングが始まって、一部の始まる放送が鳴ると楽しさがかくしきれずSにバレて、ちょっとはずかしかったです。

二部で私が回る時、最後にダンスを見に行きました。「カラフルガールズ」の皆がかわいくて「ファン」になりました。スペシャルゲストもダンスが上手でかっこよかったです。最高でした！その後、おばけやしきに行きました。最初は余裕と思ってたけど、入った瞬間ものすごく怖くなって叫びまくりました！あまり時間がなかったのにここまで本格的なのはすごいな！と思いました。

今日はステパノまつりができて良かったです。今日は嬉しいことばかりです！ステパノまつりもできたし、露崎先生が結婚したこともです！幸せになってほしいです。

ステパノまつり実行委員

ゲートウェイ ステパノ

中学三年　M・M

今日は、ステパノ祭り当日でした。私は、ホールでダンスを踊りました。本番だからむちゃくちゃ緊張したけど、みんなが盛り上がってて楽しかったし、安心できてよかったです。

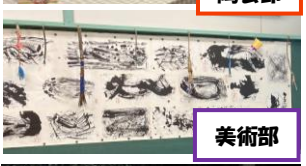
発表が終わったら、いろんな出し物にも行きました。金魚すくいで商品を貰えたり、お化け屋敷も少し怖かったけど面白かったし楽しかったです。

私は中三で最後だけど、三年ぶりにステパノまつりができて本当によかったです。

すくい屋

射的

陶芸部



美術部

お化け屋敷

「メニューはこちらです！」とテーブルに設置されたiPadにランチメニューを映し出し、私の好みを聞きながらオススメ料理の説明をして注文を受けるそのロボットは、名前をOriHime（オリヒメ）と言う。身長二三㎝ほどの小さなロボットだが、手の動きを交え、リアルタイムで対話をしながら接客している。そこは、「分身ロボット」が店員として働くカフェ「DAWN ver. β」（ドーン　バージョンベータ）、受付の案内や、ドリンクを運び給仕を担当する身長一二〇㎝の自走ロボットも働いている。このカフェの唯一無二の新しさは、働くロボットの〝正体〟が、AI（人工知能）でも、予め設計されたプログラムなのでもなく、人であるということだ。それぞれのロボットOriHimeには、パイロットと呼ばれるそれぞれの操縦者がいて、自宅や病院などそれぞれの居場所からタブレットやパソコンで遠隔操作を行い、カフェでの仕事を務めている。

私のテーブルでサービスを担当してくれたパイロット「こやさん」は、来店者の誕生日を知ると、両手を広げて可愛らしく踊りながらバースデーソングを歌うOriHimeの姿で祝ってくれた。明るく楽しく穏やかながら開放的な雰囲気で和ませてくれる人柄の良さが心地よく感じられたことは不思議なもので、姿や表情は見えなくても伝わるものこそが、人の存在感なのだろうと高揚した。こやさんは、SEとして企業に勤め、二人のお子さんの父として暮らしていた三六歳の時に、多発性骨髄腫という癌を発症し、入院治療が十三か月に及んだそうだ。腰椎の病理骨折により体や顔を起こすこともできず、毎日天井を見つめて過ごしたという。九年経った現在は自宅で療養を続けながら、リモートワークでSEの仕事を続け、分身ロボットのパイロットとしても働くことで、新しい出会いと刺激を楽しみ、人生に広がりを得られるのだと教えてくれた。

夜明け・幕開けという意味を持つDAWNという名のカフェで働く約七〇名のパイロットは、難病や障害の為に身体の不自由さや外出の制約を抱える人だそうだが、操縦する人の主体性が軸となる分身ロボットは、今そこにいるという存在の臨場感を放って社会に出ている。

「すべての人に社会とつながり続ける選択肢を」との想いから分身ロボットOriHimeを開発し、テクノロジーによって社会参加の新しい形を模索し実現するための実験的カフェを運営して「誰も孤独にならない社会」を目指す、ロボットコミュニケーターの吉藤オリィさんの原点や展望を、次号でご紹介します。

OriHime

STEPHEN'S NEWS

○教職員異動のお知らせ

【書写】　非常勤講師　山澄　智英　新任

《表彰》

◎日本漢字能力検定

・８級　小３　髙木　幸人

・３級　中２　大山　タロウ

◎情報処理技能検定

・４級　表計算　中２　杉本　翔梧

◎中郡中学校総合体育大会

陸上競技の部

・男子共通1500ｍ　第３位　草次　颯大

・男子共通800ｍ　第２位　大城　志優錬

・男子共通400ｍ　第１位　大城　志優錬

【編集後記】

涼しい秋風が吹き始め、空を飛び交う、たくさんの赤とんぼ達と共に運動会の練習をしています。

ステパノまつりなどの行事も戻って来て、子どもたちも嬉しそうです。（え）

発行者　聖ステパノ学園小学校・中学校
校長　佐藤　紀明
ステパノだより編集委員会
〒255-0003
神奈川県中郡大磯町大磯８６８
TEL　０４６３-６１-１２９８
FAX　０４６３-６１-９７３９
http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇二二年十月十七日（月）発行　第269号